

# 西の菜時記

平成29年1月15日発行  
第43号

発行元：山口市菜香亭  
指定管理者  
特定非営利活動法人  
歴史の町山口を甦らせる会

## 特集：野村望東尼のゆかりの地

◆山口市菜香亭：〒753-0091 山口市天花1丁目2番7号 TEL:083-934-3312 FAX:083-934-3360◆

菜香亭の大広間に掲げている  
山県有朋書  
「江山豁如」



「江山豁如（こうざんかつじよ）」は、山野が開けたさまをいい、転じて眺めがいいという意味で、料亭からの眺めがいいというだけでなく、自分の人生の眺めがいいなあという意味もこめられているように思われます。

料亭菜香亭には明治16年3月1日に来亭されました。明治維新以来久々の帰郷だったかもしれませぬ。同年12月には内務卿に就任し国政の実質トップに立っていますので、故郷に錦を飾ったときといえます。

「江山豁如（こうざんかつじよ）」は、山野が開けたさまをいい、転じて眺めがいいという意味で、料亭からの眺めがいいというだけでなく、自分の人生の眺めがいいなあという意味もこめられているように思われます。

料亭菜香亭には明治16年3月1日に来亭されました。明治維新以来久々の帰郷だったかもしれませぬ。同年12月には内務卿に就任し国政の実質トップに立っていますので、故郷に錦を飾ったときといえます。



山県有朋(山口県立文書館)

山県有朋は天保9年(1838)萩の下級武士の家に生まれました。4歳で母親を亡くし、祖母に厳しく育てられました。22歳の時に父も亡くし、26歳の時には祖母が自害というこゝろもあり、家庭的には寂しい環境でした。そのため沈着冷静で

陸軍大将から総理大臣

明治の元勳

山県有朋

やまがた ありとも

## ◆菜香亭市民ギャラリー出展作品紹介・予定表◆

### <市民ギャラリー出展作品の紹介>

山口発「暮らしに寄りそうハーダンガー」  
—HappyJoyousHardanger ちくちくの会—10/22~10/23



水彩画 8人展「山口の風景と静物」  
—水彩画同好会「香山」— 11/17~11/20



出展ご希望の方は、  
2ヶ月前までにお申し出ください。  
※ご利用について内面に詳しく掲載しています。

(お問い合わせ)  
TEL:083-934-3312  
FAX:083-934-3360

これからの展示予定! 見に来てね!

<平成29年度 市民ギャラリーの予定> 1・2・3月

月日	時間	タイトル	主催者
3/8 ~13	9時~17時 (初日のみ9時半、 最終日のみ16時まで)	笑顔の輪がひろがる山口 絵手紙作品展	山口絵手紙ぼすと 倶楽部

## 虹橋

萩往還の山口市木町橋傍に、大内文化のまちづくり協議会が設置した山口十境詩の一つである「虹橋跨水」の詩碑があります。

山口十境詩は、文中2年(1373年)に24代当主大内弘世の招致により大殿屋形に滞在していた明の使節で高名な文人であった「趙秩(ちょうちつ)」が、弘世の懇請に応じて山口の名勝十か所を選んで賦詠(ふえい・詩歌をつくりよむこと)したものです。

十境とは、中国の禅寺ではその近くの風光明媚な場所を十か所選び、そこで禅を行うことが一般的であり、境とはそのような景勝地を示すと言われています。

虹橋は、もともと木町橋のことではなく、山口市の天花にあり、現在は昭和58年3月に治水ダムとして完工した一の坂ダムの「錦鶏湖」に水没して見る事が出来ません。

趙秩が賦詠した「虹橋跨水」の詩の内容は、説明板によれば

「虹橋、水に跨る 水中に在る岩や美しく平らな岩が 東流する一の坂川に交わり出迎える 私は始皇帝よろしく海を渡り東方にある不老長寿の神仙の世界を探し求めて興味が尽きない 仮に木造の虹橋ならぬ大空にかかる虹の橋を渡るならば空を浮遊して人間界から去ってしまいたい 仙界の扶桑はどのあたりか 三州はいづこにありや」(詩の意訳と解説は郷土史家荒巻大拙氏による)

街外れた天花の里にかかる虹橋から美しい一の坂川の流れてを見て、遠く中国から東方の日本にわざわざ来た趙秩の思いが伝わってくるようです。

一の坂川ダムの傍を通る時、この湖の下にはかつて風光明媚な虹橋があったことがいつも思い出されます。



十境詩「虹橋跨水」の詩碑がある木町橋のたもと。まっすぐの道が萩往還。左に曲がると五重塔が見えてくる。

## 山口の子どもたちに贈った言葉「龍福寺参道」

山県有朋の石碑が龍福寺の参道入口のわきにあります。明治28年(1895)、鴻巣尋常高等小学校(現在の大殿小学校)の開校記念に松の木が植えられました。



翌年山県有朋が来校したとき、子供達が将来に向かって大きく羽ばたき成長することを願って「先駆ける」の意味で「さきがけの松」と命名されました。そのとき揮毫された書をもとに石碑が大殿地区有志により建立されました。

## 高杉晋作とは戦友として深く関わった

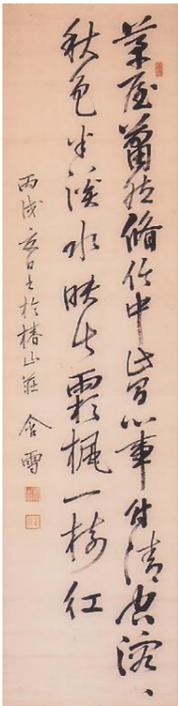


若き日の山県有朋(県立山口博物館)

大殿大路の十朋亭の向かいに、むかし古見家という旅宿がありました。ここには幕末、高杉晋作や山県有朋が宿泊しています。山県と高杉は同じ吉田松陰門下生として奇兵隊を介して深く結ばれていました。

高杉晋作の死の床にいたとき、山県有朋は心配で離れずに近くにと関わっていました。その晋作を看病した野村望東尼とは、そのとき知り合ったかもしれません。

明治35年(1902)、福岡県姫島に建立された「野村望東尼之旧趾」碑の建設に山県も寄付したのは高杉晋作との縁を大事にしたい思いがあったのかもしれない。



有朋書(菜香亭所蔵)